

リスクマップ改訂に向けた当社意見について

No.	分野	項目	年度	意見内容	意見理由
1	液状の放射性物質	1/3号機S/C水位低下に向けた取組	2022	「1/3号機S/C水位低下に向けた取組(継続)」へ変更	<ul style="list-style-type: none"> 1/3号機S/C水位低下に向けた取組は、1/3号機ともに、2022年以降も継続的に実施するため。 1号機: S/Cの水位低下に向けた現場の成立性の検討は、2021年度内に実施している。2023年度の設備設置を目標に、機器構成等の検討を進めている。 3号機: 取水設備設置は、2022年度完了目標に進めている。ガイドパイプを用いた更なる水位低下は、2023年度中頃までに 検討を進め、2028年以降の水位低下開始を目標に進めている。
2		タンク内未処理水の処理開始(2022年度中に手法検討)	2023	実施時期「2022年度内」 ⇒実施時期「今後更なる目標2025～2033」へ変更	<ul style="list-style-type: none"> 濃縮廃液については、海水由来の吸着妨害成分濃度が高く、既存の水処理設備では容易に処理することが困難である。 吸着妨害成分を除去する方法を2023年度に整理する計画である。なお、吸着妨害成分を除去する方法の一つとして蒸発処理があるが、この方法については、2022年度に検証を実施する予定である。 タンク内未処理水のスラリー状のものについて、現在設計検討中のスラリー安定化処理設備の活用も含め検討を進めている。 吸着妨害成分を除去する設備の設置やスラリー安定化処理設備を活用していくことから2025年以降の本格処理となるため。 なお、2023年度からの早期リスク低減を目的とした方針を2022年度内に決定できるよう検討を進める。
3	液状の放射性物質(その他のもの)	高性能容器(HIC)内スラリー移替作業 ※積算吸収線量が上限値(5,000kGy)を超えたもの	2022	実施時期「2022年度内」 ⇒実施時期「実施中(継続)」へ変更	<ul style="list-style-type: none"> スラリー移替作業は、ダスト対策等の妥当性を確認しながら、低線量HICから順次実施している。 移替対象となるHICは、スラリー安定化処理設備が稼働するまでの時間経過に伴い増加するため、移替作業は、2022年度に完了するのではなく、継続的に対応していくため。
4	固形状の放射性物質	大型廃棄物保管庫(Cs吸着材入り吸着塔)設置	2022	【大型廃棄物保管庫(Cs吸着材入り吸着塔)設置(2022年度以降)】へ変更	<ul style="list-style-type: none"> 2021年7月7日「令和3年2月13日の福島県沖の地震を踏まえた東京電力福島第一原子力発電所の耐震設計における地震動とその適用の考え方」に基づき、建屋の耐震設計評価を実施している。 この評価結果に基づき、機器の耐震設計、設備の製作・設置を行うため、2022年以降の設置完了となる見込みであるため。
5		減容処理設備・廃棄物貯蔵庫(10棟)設置	2022	廃棄物貯蔵庫(10棟)設置と減容処理設備を分離。 廃棄物貯蔵庫(10棟)設置を2023年度に新たに項目立てし、【廃棄物貯蔵庫(10棟)運用開始】を追加	<ul style="list-style-type: none"> 減容処理設備設置は、2022年度竣工目標に設置作業を進めている。 廃棄物貯蔵庫(10棟)設置は、3棟設置を計画しており、2023年度に1棟の設置完了し、廃棄物の受入を開始する計画のため。
6		ALPSスラリー(HIC)安定化処理設備設置	2023	年度「2023年度」 ⇒年度「2024年度」へ変更	<ul style="list-style-type: none"> 第92回特定原子力施設監視・評価検討会における指摘事項への検討及び2021年7月7日「令和3年2月13日の福島県沖の地震を踏まえた東京電力福島第一原子力発電所の耐震設計における地震動とその適用の考え方」に基づく耐震設計の評価を実施しており設備の再設計を実施している。 再設計後の建屋や設備の製作、据付工事に約2年程度を要するが、スラリー安定化処理設備が稼働するまでの期間、スラリー移替え作業を行い、ALPSスラリーの漏えいリスク低減を図っていく。
7	外部事象等への対応	建屋周辺のフェーシング範囲の拡大【雨水】～2023	2022	「建屋周辺のフェーシング範囲の拡大【雨水】～2023※」へ変更 「※:陸側遮水壁内の50%を目標」を追加	<ul style="list-style-type: none"> 2023年度に陸側遮水壁内のフェーシングが全て完了するように捉えられるため。
8		建物構築物・劣化対策・健全性維持(2022年度中に1/2号機地震計の設置)	2024	建物構築物・劣化対策・健全性維持(建屋健全性の調査・評価手法の確立)	<ul style="list-style-type: none"> 地震計の設置は、「建物構築物・劣化対策・健全性維持」のためのデータの一つであることから、これ単独をマップの項目に挙げるのではなく、 これらも含めた評価手法の確立を実施していくため。
9	廃炉作業を進める上で重要なもの	シールドプラグ汚染を考慮した各廃炉作業への影響を検討	2022	「シールドプラグ汚染を考慮した各廃炉作業への影響を検討(継続)」へ変更	<ul style="list-style-type: none"> 燃料デブリ取り出しの工法検討時にシールドプラグの影響を考慮する必要があり、継続的に検討を行うため。
10	廃炉作業を進める上で重要なもの(その他のもの)	格納容器内及び圧力容器内の直接的な状況把握	実施中(継続)	「格納容器内及び圧力容器内の直接的な状況把握(圧力容器は実施予定)」へ変更	<ul style="list-style-type: none"> 原子炉圧力容器内部調査は、現状未実施であり、今後実施予定であるため。

その他(リスクマップ以外に関するもの)			
P11「2号機燃料デブリ試験的取り出し」	【修正前】 ・2021年度内に開始を予定していた2号機からの試験的取り出しについては、新型コロナウイルス感染拡大の影響等による 取り出し設備の開発遅延等のため工程が遅れた。現在、燃料デブリの試験的取り出しを2022年度中に開始することを目標としている。	⇒	【修正後】 ・2021年内に開始を予定していた2号機からの試験的取り出しについては、 新型コロナウイルス感染拡大の影響等を踏まえて、1年程度の遅延に留められるよう取り出し設備の開発等を進めている。
P11「2号機燃料デブリ試験的取り出し」	【修正前】 ・1号機格納容器内部調査については、1月12日から遠隔操作室ならびに現場における調査前の準備作業として、調査装置の電源投入を順次開始した。この過程において、水中ROVに内蔵されている線量表示データが正確に表示されない等の不具合が発生しており、現在、原因の究明及び対策が検討されている。	⇒	【修正後】 ・1号機格納容器内部調査については、2022年1月12日から遠隔操作室ならびに現場における調査前の準備作業として、調査装置の電源投入を順次開始した。この過程において、水中ROVに内蔵されている線量表示データが正確に表示されない等の不具合について、原因の究明及び対策が完了したことから格納容器内部調査を再開した
P10「プロセス主建屋等ゼオライト等の回収着手」	【修正前】 ・2022年度は回収に向けた詳細設計が、2023年度より回収着手される予定。	⇒	【修正】 2022年度から回収に向けた詳細検討を進め、2023年度より回収着手される予定
P19「言葉の表現」	【修正前】 Sr吸着塔及びHIC	⇒	【修正後】 Sr吸着塔及びALPSスラリー
言葉の表現	【修正前】 ゼオライト等 ALPSスラリー(HIC)安定化処理設備設置	⇒	【修正後】 ゼオライト土囊 スラリー安定化処理設備設置